

な るほど その2 本願寺

唐門

桃山時代の豪華な装飾彫刻を充満した檜皮葺き(ひわだぶき)・唐破風(からはふ)の四脚門(しきゃくもん)で、伏見城の遺構とも伝わります。

彫刻の見事さに日の暮れるのを忘れることから「日暮らし門」とも呼ばれています。



唐門

© Hongwanji

飛雲閣



© Hongwanji

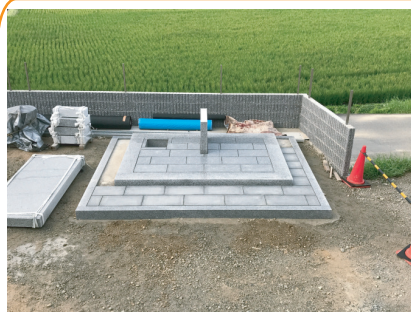
飛雲閣

金閣、銀閣とともに京都三名閣の一つ。豊臣秀吉が建てた聚楽第(じゅらくだい)の一部ともいわれており、三層からなる楼閣(ろうかく)建築です。

住職シター

ようやく、善教寺墓苑(墓苑名・慈雲山浄縁)、『浄土と縁を結ぶ』をコンセプトに開山することが出来ました。夜にはアプローチライトが灯り、とっても素敵な墓苑となりますので、一度、ご覧になって下さいね。

一番の目玉は、永代合葬墓。ご遺骨の納め方は、骨壺ごと納骨する様式と焼骨のみ納骨する様式に分けました。写真では分かり難いですが、小さく穴の開いている箇所は、



永代合葬墓の基礎部分

焼骨のみ納骨するスペースです。残念ながら、この寺報発行日には、まだ完成しておらず、建碑工事途中の写真しか載せることが出来ませんが、きっと立派な永代合葬墓に仕上がると思います。お楽しみになさって下さいね。



左にある穴の部分は焼骨のみ納骨するスペース

